

ユニオン

2024年10月15日 発行

2024年 秋号

<第63号>

編集・発行／社会福祉法人ワークスユニオン 代表／池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881

UNION RUSH

クラブ活動

UNION☆STARS

仕事とグラウンド

僕が短期利用を始めたのは2017年頃から来ました。その頃から仕事の折り合いが中々つかず、時々しか来ることができませんが今は月一回来ています。

西長堀から野田阪神の本屋に行くことが楽しみで本を買ってきます。良いひと体験ができて今はグラウンドに来て楽しいです。

お弁当屋さんで働いていた頃はエプロンを自分で洗っていたので大変でした。その仕事は足を痛めたことで辞めて、今は食堂の洗い場で働いています。

休みの日はヘルパーさんと好きな映画やイベントに行ったり買い物に行ったりしています。毎日楽しく過ごせたらよいなと思っています。

野中 克修

日中支援の今とこれから

ワークスユニオンの日中支援事業所は、集団でのストレスをなるべく抑えられよう小集団での活動を目指し、どの事業所も定員を20名で運営しています。

年齢や特性の事などを考え、「和」と「匠」を就労継続支援B型事業から生活介護事業に移行し、約12年が経過しました。

「和」と「匠」は利用者さんの年齢層や特性は違いますが、どちらも働くことを支援の柱にしながら、運動プログラムや創作活動、外出など楽しみの要素を加えた日課の提供を取り入れています。ダンス活動や、創作活動には講師を招き定期的に活動を行っています。

職員も定期的に創作活動や習字の活動なども提供し、日々利用者さんが楽しく過ごせるよう取り組んでいます。「匠」では社会福祉協議会に畑を借りて畑活動として野菜の栽培も行っています。

生活介護事業所の今後については、取り組んでいる色々な活動の内容を深めていこうと考えています。特に創作活動に力を入れて、利用者さんが今よりも楽しんで活動に参加でき、利用者さんの表現の場を広げられるよう取り組んでいきたいと考えています。

就労継続支援B型事業所「ワークス集」と「ワークス翔」は、1日を通して仕事をメインに行なっています。「ワークス集」は長年取引業者や受託内容はほとんど変わらず、コロナ禍では仕事量が減少することもありましたが、現在では安定し

て仕事が入ってきています。企業内で仕事を行っている「ワークス集」の施設外就労現場「ワークス歩」は、企業内という緊張感を持ち、会社と日々やりとりしながらハンガーのウレタンかけの作業をメインに行っています。他の業者とも取引し、色々な作業が途切れることなく入ってきています。

「ワークス翔」は清掃業務を主に行なっています。

マンションの日常清掃や居室内の共有部の清掃を行なっており、気温や天気などの状況に応じて利用者さんの体調を考えながら取り組んでいます。また、昨年度ま

で軽作業を行うチームもありましたが、今年度からは、今後の事業展開を考え軽作業班は「ワークス集」に移行し、清掃業務のみを行うことになりました。

就労継続支援B型事業所の今後の展開としては、建物の環境面や利用者さんの体力面、年齢などから通所が負担になってきている人が増えてきた事業所を徐々に生活介護サービスへ移行し、利用者さんが今よりも過ごしやすい環境や支援を提供していけるよう検討しています。

階段の上り下りが少しずつ負担になってきている利用者さんが増えてきています。「ワークス翔」では清掃中の夏の暑さや冬の寒さなどが少しずつ利用者さんの中で負担になってきている状態です。



ワークスユニオンの利用者さんは、年齢を重ねても仕事に対しての気持ちが強くなり、仕事を軸にすることで安定して過ごせる人が多いです。生活介護事業所を利用している高齢の利用者さんは、現在75歳で、仕事だけで1日を過ごすことは難しいですが、少しでも仕事をしたいという気持ちを尊重して、作業と色々な活動を行いながら日々過ごしています。

これから、年を重ねた利用者さんがやりたいことができて、安心して楽しく過ごせる環境と支援の提供を目指していきたいと考えています。

(横田)

クラス活動の醍醐味

機関紙第25号で『打ち込

めるものを見出してほしい」とのタイトルで、ワークスユニオンのクラブ活動（ダンス・ふうせんバレー）のはじまりを紹介して、早15年が過ぎようとしています。

練習や発表会・大会への参加を重ねて、利用者さんの意識が変わってきたように感じます。当初は余暇活動の一環や、「楽しそう」という気持ちで参加されていた利用者さんもいたように思いました。

しかし、時を重ねた今では発表会や大会に向けて練

習し、全員で一つの目標に向かう、一致団結した姿勢をとっても強く感じます。

琢磨しあい、積み上げていくこと」など経験できることがクラブ活動を支援する醍醐味だと感じます。

『打ち込めるものを見つ

ける』という始まりから、年を重ねるとともに深化しているクラブ活動。利用者さんも支援者も、興味のある方は、まずは見学してみてください。

（高橋）

〔高橋〕

『夢花火旅行』

今年度の「匠」旅行は、8月22日(木)、23日(金)に兵庫県・城崎温泉へ一泊二日で行きました。

夏に行くことになった理由は、利用者の会議のアンケートで「大きな花火をみたい・温泉に入りたい」の得票数が多く決まりました。

地方で温泉が入れ、なおかつ旅館から花火が見るところができる場所を探し、数件の中から候補を上げて決めました。特に花火は、事業所の創作活動でも、花火をモチーフにした作品作りをした為、旅行への気分が高まっていました。

がると、みなさん見入り「ピーードーーン」とど
でかい花火が上がるたびに
歓声が上がっていました。

混雑することなく、ホテル内で見ることが出来る醍醐味を味わってもらえましたこの日は、今年度最終日の「城崎夢火花」だったようで、普段は5分で終わる予定でしたが、10分ほど上がっていました。

旅行後「あんな見事な花火もうみられへん」「綺麗かつたなあ」「また、来年も夏の花火がいい」等の声が聞こえてきました。

城崎の夜に咲いた花に酔
いしれた「匠」旅行となりま
した。
(島村)

(島村)

舞洲工場見学に

行ってきました

6月7日(金)に、「和」の野外活動がありました。今年、あの斬新で個性的な建物で有名なゴミ焼却施設、舞洲工場へ見学に行ってきました。

今回の野外活動では、今まで仕事以外の活動(創作や食事会など)には消極的であった利用者さんが、初めて行事に参加してくれたという大変嬉しいことがありました。その利用者さんは、工場見学中、説明を聞きながら熱心にメモを取っていて興味津々の様子でした。舞洲工場では、見学に来た人に興味を持ってもらえるように、係の人がとても

分かりやすく説明してくれます。そんな係の人たちのお陰で、他の皆さんも最後まで楽しめたようです。

この工場見学では迫力満点の作業の様子を間近で見られます。特にゴミを直径6mの大きなクレーンで持ち上げ、別のピットに移す作業では、ゴミを落とす時の音がすさまじく、思わず皆さんも、「すごい」と声を上げていました。

その他にも実際に機械を動かすことができるなど盛りだくさんの内容で、皆さんにも大変好評の野外活動でした。

(中濱)

夏の盆踊り大会!

今年も8月2日に三軒家西小学校にて、盆踊り大会が開催されました。グループホームの利用者さんが総勢、12名参加。職員と一緒に小学校の運動場にて盆踊りを楽しんできました。

この盆踊り大会は毎年恒例となっているそうで、今回もこの三軒家西地区に住む、子供からお年寄りの方々が参加し、焼き鳥や、ミルクせんべい、スーパードールすくい、型抜きなどの模擬店もある、大変にぎやかな盆踊り大会でした。

最初は、「踊られへんわ!」「ただ盆踊り見たいだけ」など利用者さんは話していましたが、それでも参加してみると、やぐらの前にかかれた円に沿って、しっかりと隊列をなし、近所の住民の方々に交じり、見よう見まねで踊ったり、それぞれに踊り方で盆踊りを楽しませていました。

ただ今年は何年より暑い

日が続き、日暮れを過ぎてもなかなか涼しくなりませんでした。利用者さんも最初は勢いよく踊っていたものの、最後はばててしまい、用意されていたテントのベンチに座り、踊っている人々を眺めたり、模擬店でジュースや食べ物を買って休憩をしていました。

地域生活において、近所の住民に自分たちのことを知ってもらうことは大事と考えます。地域のコミュニケーションに溶け込む意味でも、今後も積極的にこういった地域活動に参加できたらと思います。

(濱野)

編集後記

▼「宝くじで一生困らない額が当たったら、働くか!!」という、もしもの話をしたことはないだろうか。「趣味や旅行をして暮らす」「何かしら仕事をしたい」と、色々な答えがあると思う。▼『生活のため』『社会貢献』『成長したい』など、人それぞれに働く意味や目的も違うだろうから、正解はない。▼利用者さんにとって事業所とは、どういう場所だろう。たくさん作業をして工賃を稼ごうたい人もいれば、ゆったり過ごしたりレクリエーションを楽しみたい人もいます。また、年齢や経験と共に変わっていくこともある。▼「最近作業忙しいわ」とぼやきつつも「工賃〇〇円やった!」と誇らしげな顔をする利用者さんや、「今日散歩したり、絵描いてん」と笑う利用者さん。皆にとって、毎日通いたいと思えるような場所を作っていけたらと思う。

(N)